

果樹園で牛を飼いたい!

福島県立福島明成高等学校 生物生産科 2年 佐藤 まりも

私の家は果樹農家です。サクランボ、モモ、ナシ、リンゴにブドウまで栽培しています。お客様に評判で遠方からも買いに来てくださる、私の自慢の果物です。私が中学校1年生の時、おいしさの秘密を父に聞いたことがありました。父は「果樹の畑には、たくさんの牛ふん堆肥が入っているんだよ。今度一緒に行ってみるか?」と言われ、一緒に堆肥を仕入れに行きました。そこで、初めて牛と出会い、そのかわいらしさに一目惚れをしました。休日は父にせがんでたくさんの牧場に連れて行ってもらい、エサやりや搾乳体験をしました。搾乳体験では、乳房の温かさ、乳頭から勢いよく出る牛乳に感動し、すっかりホルスタインの虜になり、将来は果樹園で牛を飼う!と父に宣言しました。

それは中学3年生になっても変わらず、進学先を決める際には、牛がいる福島明成高校に行きたいと考え入学しました。そこでは繁殖和牛を飼育し、毎月子牛が生まれます。実習中に先生が、「ヨーロッパではアニマルウェルフェアに基づいて飼育管理をしているんだ」と教えてくれました。このとき初めて「アニマルウェルフェア」という言葉を聞きました。「家畜にストレスをできる限り少なく、健康的な生活ができる飼育方法のあり方」、それが「アニマルウェルフェア」だそうです。私は牛の管理でストレスを少なくするためにどうしたらよいか考え実践してみました。

まず、除ふん作業です。牛床が汚れていればきっと牛が横になったときに体が汚れて気持ち悪いと考えたので、丁寧な作業と新しい敷料を牛床にまんべんなく敷いてあげることを心掛けました。そうすることで牛がパドックから帰ってくるときに滑ることなく、単房でゆったりと過ごしている様子が見られるようになりました。また、おいしい水が飲めるよう、ウォーターカップをピカピカに洗いました。牛の快適な生活のためにやれることをやりました。

そんな中、ふと「アニマルウェルフェアって生産者にとってはどんな利点があるのだろうか?」と疑問が生まれました。営農指導員の平尾さんにお話を伺う機会があり、「生産者には良いことがたくさんあるんだ。牛のストレスが軽減され、リラックスして横臥することで乳房へ移行する血液の循環量が増えて、一頭あたりの乳量も増えるから収入アップにつながる。さらに、反芻回数が増え、唾液と胃酸が中和することによってルーメンアシドーシスなどの病気になりにくくなるね。」と教えていただきました。つまり牛も健康になり、人も経済的にも労働的にも負担が減ることでもちろんwin-winな関係になれるということだと、私は考えます。「牛も人もしあわせてすごいこと!」私もそんな酪農を経営したい!と思いました。

福島の復興シンボルとして「復興牧場フェリスラテ」という牧場があります。敷地面積約3.6ヘクタール、飼養頭数500頭以上の巨大なフリーバーン牛舎です。フェリスラテの企業理念が「人にやさしく、牛にやさしく」だと知り、とても共感しました。見学は伝染病予防の

ためできませんでしたが、牧場全体にゆったりとした雰囲気ひろがっていました。また、佐々木牧場では「アニマルウェルフェア」に基づいた飼育管理をしたストレスがなく健康な牛から搾乳した牛乳でつくったジェラートがあります。そのジェラートのおいしさにびっくりしました。これだ！私がやりたい酪農と果樹農家がつながった！と思いました。

私は父に将来の酪農経営について相談しました。「夢を持つことは大事だけど、実際にやるのは無理があると思う。」と相手にしてくれませんでした。しかし、昔から牛が好きで、頑固な私は、アニマルウェルフェアに基づいた飼育の利点とそこから生産される牛乳のおいしさと、その牛乳と果物で加工品を製造・販売したい、果物の残渣を飼料に利用したいことを説明しました。それに何よりも牛が大好きになったきっかけの良質な牛ふん堆肥ができ、私の自慢の果物をもっとおいしくなる！この言葉に父は協力してくれるようになりました。果樹園のそばにある耕作放棄地を将来の牛舎を建てるために利用してはどうかとアドバイスをしてくれました。私の理想の酪農がどんどん広がります。掃除の行き届いたフリーバーンの牛舎。清潔な牛床で横たわり、ゆったりと反芻をする牛。そんな牛から搾乳した牛乳でつくったおいしい季節のフルーツジェラートやスイーツの販売。飼料にはジェラートに使った果物の残渣を与える。健康な牛のふんを堆肥化させるコンポスト。臭いもなく良質な堆肥を果樹園で利用する。牛も人もしあわせな酪農。これを他の酪農家さんにも広めたいと考えています。

代々続く酪農家では、繋ぎ飼い牛舎だったりします。繋ぎ飼い牛舎は狭い土地の日本では効率のよい飼育方法です。しかし、乳生産に特化して改良されたホルスタインは大型になり、昔ながらの牛舎では窮屈な場合があります。アニマルウェルフェアに基づいた飼育管理にするには、牛床の長さを改善したりする必要があると思います。その費用をどこから出すか、大きな課題です。

そこで、私は次のように考えました。それは「クラウドファンディングを企画する」です。「酪農クラファン」のサイトを立ち上げ、支援者から資金を調達します。そして集まったお金を、あらかじめプロジェクトに加入していた酪農家に支給します。酪農家はその資金を使い、例えば、牛舎の清潔を保つために除ふん作業を楽に行える機械を導入したりするなど、牛にとって有益な設備を整えます。そして、リターン品として、その酪農家からの牛乳や加工品などを支援者に贈ります。また、サイトには「クラファン」の説明のほかに、加入している酪農家の紹介文を記載したり、「アニマルウェルフェア」について分かりやすく説明することで多くの人に「酪農」、そして「アニマルウェルフェア」について知ってもらいたいと考えています。そこから牧場にたくさんの人に来ていただけるようになればと思います。具体的には、東北自動車道の大笹生ICが昨年開通し、子供たちや都会の人々に利便性がよくなった私の牧場に来ていただき、牛舎でゆったりと過ごしているしあわせな牛たちにエサやりや搾乳体験で触れ合ってほしいです。そして、牛乳と果物を使ったジェラートを食べて、アニマルウェルフェアに

基づいた飼育管理ってこんなにおいしい牛乳ができるんだ!と感動することまちがいなしと確信しています。

私は福島明成高校卒業後、畜産学、そして酪農業を学ぶために北海道にある帯広畜産大学の畜産学部に進学したいと考えています。そこで、乳牛の飼育方法などの基本的な知識に加え、先ほど述べたような問題を解決するために実際に乳牛を飼育している酪農家の方や酪農に関わっている人たちの話を聞き、どう解決していくべきか考え、日本中に「アニマルウェルフェア」を広める活動をしたいと考えています。

全ては牛と人、両方のしあわせのために。

ご本人による朗読を
こちらからお聴きになれます。

